

ソリューショントラック所感

島野 顕継
大阪工業大学情報科学部、CAUA運営委員

ソリューショントラックでは、教育機関で有効活用できる各種ソリューションについて、ベンダーの方々からご紹介をいただきました。

シスコシステムズ合同会社の相川哲也氏には、データセンターのソリューションについてご講演いただきました。企業だけではなく、教育機関においても膨大なデータを扱っており、それらを管理するシステム導入のポイントについてのお話でしたが、最近のトレンドである「ブレードサーバ」、「仮想化」の有効性について再認識することができました。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の鬼頭稔氏には、キャンパスにおけるデジタルサイネージ（公共の場所においてディスプレイ等に情報を表示する媒体）についてご講演いただきました。街中では主に広告媒体として使われていますが、教育機関が情報を発信する場合のシステムやビジネスモデルについての新鮮なお話でした。

株式会社ネットスプリングの菅浩憲氏には、アカウント一元管理用アプライアンスについてご講演いただきました。教育機関は基本的に年1回（主に4月頃）、大量のアカウント削除、新規登録を行います。また、学内のシステム毎にアカウントが異なると、使い勝手や管理の点で多くの問題が生じます。これらを解決するアプライアンスサーバとその導入事例をご紹介いただきました。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の小林一生氏には、仮想化デスクトップについてご講演いただきました。学内の端末、持込PC、自宅で同一デスクトップが使える、インターフェースはWebブラウザを用いるというシステムは、管理者とユーザの負担を大幅に軽減できるので、魅力を感じた方々も多かったのではないのでしょうか。

過去のCAUA合同研究分科会においても、ベンダーの方々によるソリューション紹介はありましたが、2007年に「CTC事例発表」が分科会に準じた扱いとなり、2008年には「ソリューショントラック」として分科会と同等になりました。システム導入を検討している方々にとって、これらが有益な情報提供の場

になったことを願ってやみません。